

農業共済新聞 千葉版 投稿

掲載号	3 月 2 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	研究員 武田 藍
題名	イヌマキを加害するケブカトラカミキリ	
備考	【写真説明】左図；ケブカトラカミキリの成虫 右図；成虫の脱出孔	

【本文】

イヌマキは千葉県で庭木や生け垣として多用され、非常に親しみ深い樹木です。そのイヌマキで、平成 20 年、ケブカトラカミキリ（写真；左図）による衰弱・枯死被害が確認されました。ケブカトラカミキリは体長 1 cm 程度の小型のカミキリムシで、イヌマキとナギを食害するとされています。1 属 1 種の日本特産種で、九州地方などでは被害が確認されていましたが、本州では今回初めての確認となりました。

被害は平成 22 年 8 月時点で匝瑳市および横芝光町に限定されていますが、同市町内の複数の地点から確認されており、今後被害の拡大が懸念されます。植木生産圃場における発生は少なく、多くが民家の生け垣や庭木、放棄圃場における発生が主であり、直径 3 cm 程度の木にも被害が確認されており、問題となっています。

本種は、5 月頃に樹皮下で孵化した幼虫が木質部を食害し、数年をかけて枯死させると考えられていますが、食害の状況は樹皮を剥がないと見えません。また、成虫が交尾・産卵する 4 月から 5 月の短い間だけ、樹皮表面上に姿を現しますが、それ以外の時期は樹皮下で過ごします。このため、外観から被害木を識別する特徴は直径 3 mm 程度の成虫の脱出口（写真；右図）のみであり、被害の早期発見が困難な理由となっています。

一番確実な防除方法は成虫の脱出期より前に被害木を伐採し、焼却や破砕して処分することです。また、成虫の脱出期における薬剤散布も有効ですが、周囲への飛散や新葉への薬害に十分注意する必要があります。被害を発見された方は最寄りの農林振興センターにお問い合わせください。



左図；ケブカトラカミキリの成虫 右図；成虫の脱出孔